

## ドイツ語（初級A）／Aドイツ語 第2回 発音記号／アルファベット／綴りと発音

範囲：教科書扉、S.6-7

### I 発音記号とアルファベット

#### 1. 発音記号

- ◇ 辞書や教科書を利用する都合上、発音記号は知っておく必要がある。
- \* 我々が使う教科書は、発音記号を習得済みのものとして扱っている。これは、かつては高校の英語で教えていたためであるが、現在では知らない受講生の方が多いだろう。よって、ここで最小限の読み方を教えておく。
- ・発音記号は通常、大括弧[ ]のなかに書かれる。
  - ・発音記号の詳しい説明は、独和辞典の冒頭などに載っていることが多い。
  - ・発音記号はあくまでも目安であり、実際の発音と一致しないこともある。ドイツ語の場合、特に[r]の音に注意（後述）。
- ◇ **母音**の発音記号は、
- ・[a], [i]/[ɪ], [u]/[ʊ], [e], [o]：ローマ字読みでよい。
  - ・[ə]：[e]を弱く発音する。ただし、英語の[ə]よりはっきり「エ」と聞こえる。
  - ・[ɛ]：「エ」に近いが、[e]よりも口の開きが大きい。
  - ・[ɔ]：[o]とほぼ同じと考えてよい。
  - ・[y]/[ʏ]：口をすぼめて「ユ」のように発音。英語でアルファベット u を読むときの音。
  - ・[ø]/[œ]：「口をオのかたちにしてエと発音する」と考える（これが最も難しい）。
    - \* 日本語にカナ転写するときはエ段で書かれる場合が多い。Goethe が「ゲーテ」になるなど。
  - ・[aɪ], [aʊ], [ɔʏ]：**二重母音**。[aɪ]は「アイ」、[ɔʏ]は「オイ」、[aʊ]は「アウ」より「アオ」に近い。
  - ・[ɨ]：この発音記号がついている母音は**長母音**にする。
    - \* 英語と異なり、ドイツ語ではフランス語由来の外来語についてはフランス語風の鼻母音の発音をする。授業で登場したとき、あらためて説明する。
- ◇ **子音**の発音記号は、
- ・[p], [b], [t], [d], [k], [g], [m], [n], [l], [f], [v], [s], [z], [h]：ローマ字読みでよい。
    - \* [l]の発音は英語と同じ。下記の[r]との区別気をつけること。
  - ・[ŋ]：いわゆる鼻濁音。英語の-ing のときと同じ。
  - ・[j]：ヤ行（ヤユヨ）。
    - \* ジャ行（ジャジジュジェジョ）ではないことに注意。
  - ・[ʃ]：シャ行（シャシシュシエシヨ）。
  - ・[tʃ]：ツァ行（ツァツイツツエツオ）。
  - ・[tʃ]：チャ行（チャチチュチェチヨ）。
    - \* 以上は英語にもあるもの。ここからドイツ語ではじめて登場する発音記号を紹介するので、重点的に覚えてほしい。
  - ・[pf]：敢えてカタカナ書きすると「プフ」だが、母音を入れずに一気に発音する。
  - ・[ç]：「ヒ」に近いが、もちろん母音は入れずに発音する。

・ [x]: 喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音 (言葉での説明が難しい)。

・ [r]: ドイツ語の[r]音には、「舌先のふるえ音 (いわゆる巻き舌)」、「口蓋のふるえ音」、「舌先のはじき音」、「口蓋の摩擦音」の 4 種類があり、どれを採用してもよい。ただし、現代ドイツ語では「口蓋のふるえ音」が使われることが多い。

\* [r]に関しては、なぜ発音記号なのに実際の発音と一対一対応しないのか、と不思議に思った人がいるかもしれない。その疑問は正当で、実は音声学では以上 4 つの音をすべて別扱いしてそれぞれ別の発音記号を当てている。初修レベルのドイツ語では、面倒を避けるために便宜上すべて[r]を当てているだけである。正式には本配付資料 S.6 の「参考」を参照。

## 2. アルファベット (教科書扉)

◇ Das Alfabet の発音は、[das alfabe:t]。もちろん「アルファベット」のドイツ語読み。

\* das は定冠詞。the と同じ。詳しくは教科書第 2 課で扱う。

◇ ドイツ語のアルファベットは英語のものと基本的に同じで、

- ・ A/a と O/o と U/u にウムラウト (Umlaut) 付の文字 (それぞれ Ä/ä, Ö/ö, Ü/ü) が存在する
- ・ 小文字のみ ß (エスツェット、Eszett) が存在する

点だけが異なる。

◇ ß は、直前に長母音か二重母音が来る場合にのみ使われ、それ以外では ss と綴る。ただし、スイスではすべて ss と綴る。(⇒教科書 S.18)

◇ 各文字の名称を覚えてもらいたい。今後の授業では、アルファベットについては、すべて英語読みではなくドイツ語読みを採用する。

### **補足** ドイツ語の特殊文字を端末でタイプする方法

◇ 各種の端末 (パソコン、スマートフォン) でドイツ語の文字を打鍵する方法も紹介しておく。

◇ パソコンの場合

・ OS によって方法が異なる。例えば、Windows 10 では、左下のスタートボタンから「設定>時刻と言語>言語>優先する言語を追加する」の順で選択していき、「インストールする言語を選択してください」の画面で「ドイツ語」を選ぶ。すると、タスクバー右のインジケータの言語アイコンをクリックしてデフォルトのキーボードをドイツ語キーボードに変換できるようになり、それを選ぶと、「:」のキーで ä、「;」のキーで ö、「@」のキーで ü、「-」のキーで ß が打てるようになる (ドイツで売られているキーボードの配置と同じ)。

・ ほかの OS の場合は、「OS 名 ドイツ語 キーボード」などで Google 検索して調べるとよい。

◇ スマートフォンやタブレットの場合

・ 入力ウィンドウで a を長押しすると、ä をはじめとする各言語の a に関連する特殊文字が選択できる。ö は o で、ü は u で、ß は s で同じことをすればよい

\* ドイツ語の特殊文字がどうしても打てない状況の場合 (タイプライターの時代など)、ä=ae, ö=oe, ü=ue, ß=ss での代用が可能とされていた。現在でもメールなどでの文字化け対策で使うことがある。もっとも、この授業においてパソコンで作成した答案を提出したりするときには、こちらの代替方法は使わず、必ず上記の打ち方を練習してほしい。

## II ドイツ語の綴りと発音の関係

### 1. ドイツ語の発音の大原則 (S.6)

- ◇ まず大前提として、ドイツ語の名詞は**語頭を大文字**にする。
  - \* 逆に言えば、文章を読むとき、どれが名詞なのかわかりやすくなっている。
- ◇ ドイツ語では、綴りと発音はほぼ一対一対応と考えるとよい。
  - \* 英語の場合、*Japan* や *James* に含まれる各 *a* は、みな発音が異なる。ドイツ語では外来語を除いて基本的にこういった事態は生じないので、規則さえ覚えてしまえば初見の単語でも難なく発音できるメリットがある。
- ◇ その際、綴りと発音の関係の大原則としては、教科書 S.6 冒頭のルール2つのほか、「アクセントのある母音のあとの子音が1つならその母音は長母音、2つなら短母音」を覚えておくといよい (いずれも例外はあるが)。

#### 《ドイツ語の発音の大原則》

- ・ ドイツ語単語の発音は、比較的ローマ字読みに近い
  - \* これから教科書 S.6-7 で学ぶ個別の規則以外の部分はローマ字読みでよい、という意味。
- ・ アクセントは原則として第一音節に置かれる
- ・ アクセントのある母音のあとの子音が1つならその母音は長母音、2つなら短母音

- ◇ 個別の規則は、教科書をベースに、本配付資料の以下の記述を補足として覚えてもらいたい。

### 2. 母音字の発音 (S.7)

- ◇ a, e, i, o, u はローマ字読みでよい。aa, ee, oo のように母音字を2つ重ねると長母音になる。
- ◇ ウムラウト付きの母音 **ä, ö, ü** は、それぞれ [ɛ]、[ø]/[œ]、[y]/[ʏ] の発音。
- ◇ **y** も [y]/[ʏ] と発音。
- ◇ 二重母音で注意が必要なのは、ei, eu, äu の3つ。
  - ・ **ei** は [ai]
  - ・ **eu** および **äu** は [ɔʏ]。
- ◇ **ie** は、外来語でなくとも [ie] となる場合もある。Ferien (休暇) など。
- ◇ **母音のあとの h** は、母音字を伸ばして長母音にせよ、という意味。

### 3. 子音字の発音 (S.8)

- \* 子音字の発音のうち特に注意してもらいたいのは、ch と r/er と sp/st である。もちろん、ほかもなるべく覚えてほしい。
- ◇ **b, d, g** は、
  - ・ 語末、音節末、別の子音の直前では無声音 ([p], [t], [k])。
  - ・ それ以外では有声音 ([b], [d], [g])。
- ◇ **ig** は、あとに母音が続く場合は [ig] と有声音化する。Königin (女王) など。
- ◇ **ch** は、
  - ・ a, u, o, au のあとでは [x]。
  - ・ それ以外では [ç]。
  - ・ ただし、**chs** となると無条件で [ks]。

- ◇ **j** はヤ行の発音 ([j])。
  - \* 要するに、発音記号の[j]はドイツ語の j と同じ発音である。
- ◇ **pf** は[pf]の発音。
- ◇ **qu** は[kv]の発音、謎の (?) [v]音が入ることに注意。
- ◇ **r** の発音は複雑。
  - ・基本形は喉の奥を震わせる[r]（口蓋のふるえ音）。
    - \* 口蓋のふるえ音は、水でうがいをするのを想定して発音するとよい。水で喉を潤わせて練習するのもよい。
  - ・語末や母音のあとでは軽く母音化して[a]になることが多い。ihr（人称代名詞、所有代名詞）、Uhr（時計）、Irrtum（誤り）など。
    - \* 正式には、この音には[ʁ]という発音記号を使う。
- ◇ **r** が **er** となった場合、
  - ・人称代名詞 er、定冠詞 der、動詞 werden（～になる）、形容詞 schwer（重い）などの場合、発音記号では[er]ないし[ɛ:r]と表記されるが、実際の発音は[ea]に近くなる。アルファベートの R/r の名称も同様。
    - \* 上に同じく、正式に記せば[ev]。
  - ・それ以外の単語（Mutter など）の場合、発音記号は[móter]のように表記されるが、実際の発音は [móta:]に近くなる
    - \* 同上。正式に記せば[móto]。
- ◇ **s** は、
  - ・母音の前では有声音 ([z])。
  - ・それ以外では無声音 ([s])。
- ◇ **ss**、**ß** は必ず[s]。前述のように、使い分けに関してはのちに扱う。 (⇒教科書 S. 18)
- ◇ **sch** は[ʃ]の発音。英語の綴字 sh と同じ。
- ◇ **sp** や **st** は、
  - ・基本的に語頭では[[p]や[t]
  - ・それ以外では[sp]や[st]
  - ・語頭でも外来語なら[sp]や[st]、Steak（ステーキ）などと考えてよいが、例外もあるので注意。
- ◇ **th** や **dt** は単に[t]の発音。
- ◇ **tsch** は[tʃ] の発音。英語の綴字 ch と同じ。
- ◇ **z**、**ds**、**ts**、**tz** はどれも[tʰ]の発音。
  - \* z が[z]ではないのに注意。
- ◇ **v** は基本的に[f]の発音。ただし、外来語では[v]のままのこともある。
- ◇ **w** は[v]の発音。
  - \* v が[v]ではなく、w が[w]ではないことに注意。ドイツ語には[w]の音、要するにワ行はない。
- ◇ **x** は必ず[ks]の発音。英語のように濁ることはない。

### 補足練習問題 1

授業第 1 回配付資料 S.5-6 の「1. 数詞」と「2. 挨拶」につき、今日の授業で学んだ綴りと発音の規則を念頭に置きながら、あらためて発音せよ。

1. eins 2. zwei 3. drei 4. vier 5. fünf 6. sechs 7. sieben 8. acht 9. neun 10. zehn
11. elf 12. zwölf
13. Guten Morgen!
14. Guten Tag!
15. Guten Abend!
16. Gute Nacht!
17. Auf Wiedersehen!
18. Tschüs!
19. Danke Schön!
20. Bitte Schön!
21. Wie geht es Ihnen?
22. Danke, gut.

### 補足練習問題 2

以下のドイツ語の単語を発音せよ。

1. Mann (男) 2. Bett (ベッド) 3. Kino (映画館) 4. Gott (神) 5. du (君、英語の *you*)
6. Nähe (近く) 7. Köln (ケルン) 8. Glück (幸福) 9. liegen (横たわる)
10. nein (いいえ) 11. Euphonium (ユーフォニアム) 12. Aal (ウナギ) 13. Boot (船)
14. lieben (愛する) 15. halb (半分の) 16. Mond (月) 17. Krieg (戦争) 18. König (王)
19. Koch (コック) 20. echt (純粋な) 21. Achse (軸) 22. jung (若い) 23. Pfeil (矢)
24. Quelle (泉) 25. Reich (国) 26. Lektor (講師) 27. Lehrer (教師) 28. Sohn (息子)
29. Weisheit (知恵) 30. Fuß (足) 31. dass (英語の接続詞 *that*) 32. schon (すでに)
33. Sport (スポーツ) 34. Stunde (時間) 35. Thema (テーマ)
36. Tschau Tschau (曹操のドイツ語表記) 37. Vetter (従兄弟) 38. Wald (森)
39. Xenophobie (排外主義) 40. zusammen (一緒に)

**参考** 発音記号の理屈

(1) 母音

舌	前後		前舌		中舌	奥舌
高低	開口度\唇の形		非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	狭	閉 開	i: i	y: y		u: u
中高	半狭		ɪ	ʏ		ʊ
中低	半広	閉	e: e	ø: ø	ə	o: o
低		開	ɛ: ɛ	œ		ɔ
	広		a a:			

(2) 子音

調音様式\調音位置		両唇音	唇歯音	歯～ 歯茎音	硬口蓋 歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音
障害音	無声破裂音	p		t			k		
	有声破裂音	b		d			g		
鳴音	鼻音	m		n			ŋ		
	流音	側音		l					
		ふるえ音			r				ʀ
	はじき音			r				ʀ	
障害音	無声摩擦音		f	s	ʃ	ç	x		h
	有声摩擦音		v	z	(ʒ)	j		ʁ	
	無声破擦音	pf		ts	tʃ				
	有声破擦音				(dʒ)				

\* 辞書の巻頭などによく書いてある発音記号の表を再現すると、このようになる。もちろん、この場は音声学ではなく初修ドイツ語の授業であるため、こうした理屈をいちいち覚える必要はない。参考までに掲げているにすぎない。

\*\* 教科書や授業では[r]で統一してある発音は、正式には、[r]（舌先のふるえ音）、[ʀ]（口蓋のふるえ音）、[ʀ]（舌先のはじき音）、[ʁ]（口蓋の摩擦音）の4種類に分かれるわけである。すでに説明した通り、現代ドイツ語では口蓋のふるえ音（[ʀ]）を用いるのが基本なので、この授業でもそれを踏襲する。

**連絡先など**

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>